

基調講演

人が人にやさしいまち、必要とされる自治会づくり

佐藤良子（東京都立川市 大山自治会 前会長）

皆さん、おはようございます。お元気ですか？ちょっと声が聞こえないな。私たちは集まると、「おはようございます、元気ですか？」と言うと「おー！」という合図があるのですが。じゃあ、皆さん元気ですか？

会場「おー！」

はい、よろしい。(笑い)

「地域を知る」ということ。私は、今紹介していただきました大山自治会の会長を15年間務め、まちおこしをしてきました。本当にまちを作るっていうのは長い時間かかります。そして、まず自分の目でちゃんと自分のまちを「見る」、そして「知る」「聞く」。



「見る・知る・聞く・人の発見」のまちづくり

自分のまちをちゃんと見ている人、そこからまちをちゃんと形成するのに何が不足しているのか、今自分たちに何が無いのか。今までやってきたことはどうだったのかということから私は始めました。そして、知ること。「知る」っていうのは「人を知る」「物を知る」、たくさんありますね。まず、この地域に特色のある物はどういう物か。

例えば私の所だと、団地があって農家もあります。農業が形成されているところもあります。それから商業もやっています。個人個人の店もあります。そういうのを隅から隅まで知ること。その中で何が不足しているのかを発見する。全てが発見なのです。

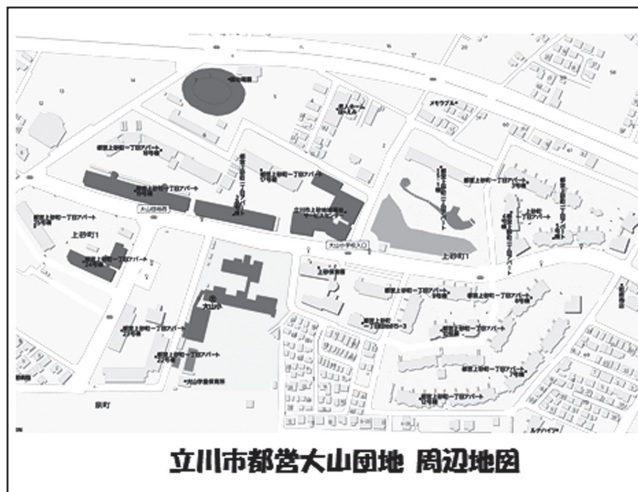
また、「人の話を聞く」。今、手を掛けているのは、大勢のグループで発言すること。これは、なかなか勇気が無くてできません。そのために、5人以上のグループで話を聞き、意見をまとめ、総合的に何か不足しているものはない

か、人の話をよく聞き、やってもらいたいもの、要望するものを聞き出し、自分のまちの構想に入れる。これが、私が最初に手掛けた仕事、「見る・知る・聞く・人の発見」というところに力を入れました。

地域が「人」を支える

まず、3つのテーマを最初に発見しました。

初めに気が付いたことは「学校」です。学校がど真ん中にあり、小学校のすぐ近くに中学校があります。



その子どもたちの様子を見てみると、夜の11時、12時まで徘徊している子どもたちが15～16人いて、セブンイレブンから弁当やジュースを買って、公園や道路にガムや物をポイ捨てる。そういうのがものすごい目に付きました。そこで、「学校に行きたくないの、どうして？こんなに夜遊んでたら学校行けないでしょう」と言う、「学校なんかつまんねえよ」「学校なんか行ったってあの先公が嫌だよ」と言うのです。そこで、「じゃ、どうして夜遊んでんの」と聞いたら、「家に帰りたくないんだよ、遊んでるのが一番楽しいんだよ」、そういう子どもたちの声に耳を傾けました。「学校が楽しい」って子はいなかったですね。「じゃ、

学校って行きたくなるの？行きたくないの？」と聞いたら「全然行きたくない」と話していました。



そこで、子どもたちのいる場所でアンケートを取りました。すると、「学校が楽しい」という子どもたちは50パーセントでした。じゃあ、「なぜ楽しくないのか」、だったら、「どういう学校がいいのか」を聞きました。

また、学校に向き、先生を交えていろんな懇談会をしました。その時に、「学校には行きたくなる学校を作ってもらおう」という意見が出ました。

では、「家庭」はどうでしょうか。「家庭」とは、どういう形があるのでしょうか。「うちは毎日おかずが1週間サイクルで、4週続けて同じ物が流れてくるよ」と言う子どももいれば、親が「早く9時に帰っておいで」と言うのに、お酒を飲みに行った親は11時とか12時に帰宅し約束を守ったことはない、子どもだけに約束を守らせる。それはいいことなのか。その家庭の事情はありますけれど、2つ目には「家庭」です。地域は家庭であり、全部家庭に囲まれたものが「地域」なのです。ですから、帰りたい家を作ってもらおう。それにはどういうふうにしたらいいのだろう。これが私たちにとっては2つ目のテーマでしたね。

3つ目は、「地域」ですね。地域はどのような地域を作ればいいのか。「ここに一生住み続けたい地域を作る」、それがテーマでした。

やっぱり、子どもたちが登校する時元気で、「学校が楽しいんだよ」「1分でも10分でも早く学校に行きたいんだよ」と言えるのが理想です。だから、学校との連携が、自治会との共同作業でした。

今は、地域から学校支援という形で、現在20名を自治会から送り出し、学年ごと全ての教室に張り付けてもらっています。なぜかという、学校訪問の際、先生1人で授業ができないところがありました。立って歩く子がいれば、ちろちろして消しゴムに穴を開ける子、隣を蹴飛ばし

たり、物を放ったりする子がいる。それが授業時間内の光景でした。これじゃあ落ち着いて勉強できる子が少ないなと感じたからです。

実際、学力テスト（算数、国語のみ）の平均点が、東京都の平均よりも、私のいる大山小学校の学力がうんと低下していました。低下している理由は、やっぱり授業の邪魔をする子がいるからでしょう。そういう状況にあったら、いい勉強やいい生徒、いい常識が生まれてこない。そのために、学校支援に乗り出しました。先生は大喜びです。

今は、ちろちろしている子どもがいると、「落ち着いて前を向いて勉強しようね」「ああ、あなた消しゴムが落ちているよ」「いたずらしないで、前を見て黒板を見ようね」と声かけをする学校支援がなりたちました。勉強を教えるわけじゃないのですが、授業をきちんとサポートできるような支援に、今も協力して行っています。

では、「帰りたい家を作る」にはどうしたらいいか。お父さん、お母さんが、子どもたちに毎日毎日元気で「お帰りなさい」とか「今日はどうだった？」とか、5分でも1分でもいいから、子どもと向き合う時間を設けてあげましょう。子どもと向き合う時は、必ず子どもの目の高さで話し合ひましょう。そういうことをどどん家庭に浸透させていきました。

また、住み続けたい地域はどのような地域があるか。やっぱり安心・安全であり、何でも要望が言え、愚痴や文句が言える、それを解決できるのが私たちにとってはいい地域だと、そう思える形を作るべきだと思います。それをやるために、たくさんのアイデアとたくさんの工夫で私たちはまちおこしをしました。

女性の自治会長になって

それにしても、女が会長になるって大変なことです。今は、「女性が自治会長でよかった」「何でも物が言えるし、きめ細かな状況ですごい」と言われるのです。

けれども、私が会長をやっていた時は、誰も私を女性とってくれなくて、「あんた女性だったの」「ご主人いるの？」「何か離婚したんだってね」と、いつの間にか情報が一人歩きしていました。所帯を持たず、1人で暮らしているとばかり思われていたようです。

また今度は、「あんなに毎日動いてるんだから、ご主人の食事はハンバーグとかを温めて、ぼんと料理を出すだけらしいよ」という噂が流れ、それを事務局が「いや、違うよ、佐藤さんほどいっぱい食事を作っている人いないよ。健康管理が一番だっていうんでちゃんと作ってますよ。弁当も作ってんのよ」と訂正しても、「嘘だ〜」と言われるのです

が、本当です。ちゃんとやっています。

住民からの声

そのような出来事もありながら、自治会に一番必要とされていることが何なのかを見つけました。

アンケート調査をした際、①自治会で一番不足していること、②やってほしいこと、③望みたいことを年齢別に書いてもらったのですが、やはり様々な意見がありました。

その中で、若い人たちからは、子どもを育てる「子育て支援」を作ってもらえたらいいなという意見がかわされました。病気になった時、子どもを預けるのにすごいお金も掛かるし、仕事も休まなきゃいけない、そうするとボーナスに響く。そういうことで、「子育てをしてくれる所を作ってもらえればいいな」というのが若い人たちの意見でした。

続いて中間層です。役員をやってもいいのだが、仕事が最前線であるため、役員をやるのだったら会議は夜の7時半からやってもらいたい。そして、誰でもできるような役員構成にしてほしい。誰でも（年取った人も障害者も）、全員がみんなでやれるような役員構成を作してほしい。役員会の在り方を考えてほしい。これが中間層の意見でした。

最後に高齢者。高齢者は、安心・安全であり、それから訪問販売がなくてだまされないようにしたい。実際に、布団の訪問販売がありました。「磁気が入ってるからこれ25万円」とか、「これは羽毛布団の中に炭が入ってるから40万円」。こういった訪問販売が多く、だまされるような人も増えていったので、だまされないようにしてほしいと。また、いざ夫が倒れた時に病院をたらい回しにされた人もいました。だから1つだけ、どこか大きな病院と提携できる病院があればすごくいいなという意見が出ました。そして、葬儀をやってくれれば、お金が掛からなく節約もできる。これは途中から全てやり切りました。これらの取り組みが自治会にとって、「ああ、全然違う自治会が出来てきたな、やっぱり女の会長にしてよかったかな」と思われた理由です。

その間には、葛藤やいじめもありました。女性会長が36年ぶりに誕生しましたからね。まず、ポストの中に生ヘビや毛虫が100匹以上入れられたり、玄関ポストの鍵が壊され、自転車17回もパンクし、しまいにはやくぎ絡みの脅し等いろんなことがありました。

やくぎ絡みといえば、違法駐車撲滅運動もやりました。違法駐車が無ければ子どもたちも高齢者も安全に散歩ができます。これは画期的でしたね。ボランティアさんを募って行ったのですがやくぎに脅かされました。大変なことで

した。だって、道路が目の前なのに、駐車場の有料駐車場を開拓して、チョークで自分の駐車場枠を作るのです。そこへ違う人が車を止めると、全部傷付けられちゃって警察沙汰になる。そういう自治会だったのです。お金をごまかし、100万円以上の使い込みがあるなど荒れ放題で。どうしたらこのまちがちゃんとしたまちになるのか、一つ一つ模索し、そして住民の声を聞きながら、それでやってきました。

そこで気が付いたことが、4本の柱でした。



市・能・工・商の4本柱

①市

「市」は、住んでいる人たちが主人公のまちを作ることです。何でも意見が言え、要望を出したら即解決できるような自治会組織を作るのです。これまでは、役員が主人公でした。役員が自分たちの好き勝手（住民を除いた考え）でやってきたのです。これはよくないなと思って、住民が主人公のまちを作ったのです。

②能

大山地区には、1,600世帯4,000人が住んでいます。その中から、能力がある人、技術のある人、知恵のある人、そういう人たちを多く発見し、見つけること。それに力を入れて、「能」の人材バンクが作られました。登録者は、今50人以上いるのです。

例えば、夏に網戸が壊れたことがありました。そういう時、事務所（今、自治会では、事務所専従の事務職員を雇っています。自治会費でお金を払っています）に修理依頼の連絡をすれば修理ができます。なぜかという、そこには定年になった大工さんが人材バンクに登録されているので、電話を入れると修理してくれるのです。材料費は注文された方から頂きますが、工事費は無料でやってもらえる仕組みです。これが有力な人材を集めるバンクです。

では、どんな人たちがいるのかというと、囲碁将棋ができる人、麻雀ができる人（麻雀は、サークル活動で4人集めれば指導に行ってくれます）、また「生け花がやりたい」と希望があれば、生け花教室を作ります。こうして、全ての人が指導者になります。今は着物の着付けができる人もいますし、それから、洋裁の仕立て屋さん（定年になった人が男性のズボン上げや、体形が変わった方の服のサイズを変えてくれる）。また、パソコンができる人、絵が描ける人、デザインをする人等、特技のある人全てが、能力のある人で登録されています。今は、まちの活性化につながっています。これが新たな発見でした。

③工

自治会で最も必要とされたことは「アイデア」と「工夫」です。一例として「孤独死ゼロ」の取り組みがあります。孤独死を防ぐのに、アイデアや工夫がたくさんありました。

さて、孤独死ってというのは何時間以内に発見しないと孤独死になるのでしょうか？さあ、分かる人。はい。（会場に問いかける）

参加者「2日間じゃなかったかな。48時間」

正解は24時間になります。24時間以内に見つけないと孤独死になってしまうのです。

孤独死いっぱいありました。1年で4回ぐらいは孤独死でした。会長になると、この人が本当にここに住んでいたかどうかを確認しなきゃいけない。消防、警察が入って、確認に行くと、もうとろけて顔からうじ虫が湧いていて。大変な形相を見て、私の神経がおかしくなり、3カ月精神内科に通いました。気絶しそう。後継者ができたら、こんなはずっと続けていたら嫌だなと思ったので、「じゃあ、皆さん孤独死を無くしましょう。仲間がこんな形で1人寂しく逝ってしまうのはおかしいよ、みんなが仲間じゃなかったの？」と呼びかけをしました。そこから、『「孤独死ゼロ作戦」に入りたい』と宣言し、会長になると同時に立ち上げたのが24時間対応です。11月からその対応に踏み切り、24時間対応の電話を買っていただきました。孤独死を探すのに、幼児の虐待や何か不審なこと、疑問に思ったこと、おかしいと思った時は電話をかけてもらいます。

それと同時に、「どうしたら孤独死が見つかるの？」ということをもみんなで考えました。「両隣の見守りをしましょう。たった2軒だけ。自分を中心にした2軒だけ見てもらえれば隣の人の様子がよく分かる」、そういうことで、「両隣見守りネットワーク」を住民全体に義務付けました。



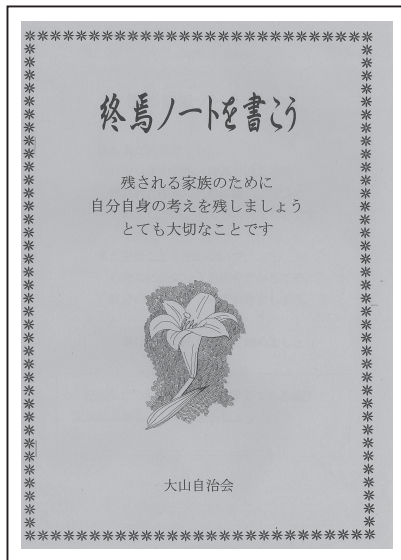
これが大成功！1人減りました。2年目は、「もっと孤独死を防ぐためにはいろんな手だてがある」ということで、企業との連携を始めました。

まず、東京電力、東京ガス、水道局が毎月検針にまいります。その時に、先月よりも使われてないなと思ったら、私の24時間対応の携帯にお知らせしてくれます。それから、事務所でも対応します。「この方は水道料使われてないのですが、どうしたのでしょうか」と民生委員さんに連絡します。高齢の方には民生委員さんとのつながりをもってもらい、民生委員さんからその状況を知ってもらいます。私も毎月自治会や子育て支援、高齢者支援のためのセンターで行われる定例会に参加し、情報収集をしています。だから、民生委員さんともとても仲がいです。

更に、「新聞配達や郵便屋と協定すればもっともっと孤独死が無くなるんじゃないの？」という声から、新聞を取っている割合を調べると、81パーセントが購読していました。読売、朝日、毎日それから東京新聞の4社と提携し、その他に宗教新聞、思想新聞があるので、その配達業界全てと提携しました。

この活動の結果、1年目では1人しか減らなかったのが、2年目で2人減り、3年目で3人、4年目で4人、5年目の平成16年から孤独死ゼロになったのです。それから去年（平成26年度）まで10年間ずっと継続されてきました。住民の力で孤独死を防げたっていうことは大きな力でしたね。

それから葬式も自治会でやりました。葬儀にあつて困ったのは、宗派を知らない若い世代が多いことです。親が亡くなっても、自分の宗派が分からない。また、葬儀の際使用する写真がなかなか無いことです。運転免許を拡大したらばやけて使えません。なので、終焉ノート（メモリアルノート）を作成しました。ノートの後ろには写真袋を付けました。これが「アイデア」と「工夫」です。



④商

さあ、最後は商業、ビジネスです。「自治会って金が無いから何もできない」とか、「行政から予算をもらえないからできない」なんていうのは、多分やる気がないのだと思います。お金はやっぱり大事ですが大山の自治会費は400円です。管理費が1,500円。それから1号棟が1区、2号棟が2区、3号棟が3区というふうに31の区を作っておりまして、区費を100円取っているから、1カ月の金額が2,000円です。高いですか、安いですか。(会場に問いかける) 参加者「高いと思います」

皆さん「高い」って言うのですが、大山では誰も「高い」って言う人はいません。

まず、管理費1,500円。私の所は東京都の都市計画で建てられた都営の団地なので。そうすると、私たちは必ずしもそのお金を集めなくてもいいのです。大山がちゃんと集めればいいのですが、その場合、1世帯1世帯の家賃に5,000円上乘せされるのです。それは、第3セクターに任せるから「人件費」なので。だから、5,000円引かれるのがいいのか、1,500円で集金されるのがいいのか。これもアンケートで答えてもらいました。95パーセントの回収率で、「自治会で集金してほしい」とのことだったので、自治会で集金に踏み切りました。そうしたら、未納者ゼロです。なぜなら、自分たちが決めたからです。そういうことで会計がいます。会計さんは毎月毎月集金します。1つの区で十何万円っていう集金をします。1番少ない棟で55世帯なのですが、多いところだと80世帯、70世帯というところもあります。そういうところで集金したお金を備蓄していくと、電気代とかエレベーターの使用料で余剰金が出るのです。その余剰金を清掃活動に使っています。余ったお金は世帯の数だけ世帯割で区ごとに返金します。その返

金されたお金で、枝を切ったり、お茶代にしたりと自由に使っていいお金なので、そういうことも1,500円の管理費で賄われています。

本当、団地とてもきれいです。草刈りもきちんとしてありますし、植え込みや垣根、バリカン等も全部用意しているので、全て叶います。それから、1世帯210円の傷害保険を掛けています。これは、人の命を守るためにはとても大事なことです。また、「動産保険」も掛けており、年間で33万円位払うのですが、お金が強奪された、盗まれたっていうときの補償をするためにあります。



そういう理由で、ビジネスをしたり、お金を集めるのにも保険を掛けたりするので、商業が一番大事なのです。この部分は大きな力を入れています。でも、私たちは行政には頼っておりません。補助金は、67万円の「街灯補助」というのを頂いておりましたが、他の補助は頂いていないのです。そのために、豊富な財源を作るためには、自治会費とビジネスで儲けたお金で活性化を図っています。

どういうビジネスなのかというと、例えば駐車場が730台あって、それを業者がやっているのですが、その業者の下請けをしています。その他に、公園が2つあって、30平米に10万円の補助金が下りるので、1,180平米と30平米で約50万円のお金を頂いています。駐車場管理では166万円ぐらいのお金を頂いて、それを高齢者事業団として立ち上げました。高齢者のための仕事場です。だから、大山は70歳以上の方が一番元気なのです。私もその元気なうちの一人なのですけれど。そこで、「これからは高齢者のための仕事場作りに力を入れなきゃいけないな」と考えております。それで、大きな仕事も入ってきましたし、高齢者のための事業を新しく立ち上げるために、その工夫とアイデアで、来年度は新しい事業の展開に入ります。そのために会長を下りたのです。二足のわらじは履けませんので。

そして、ビジネスのもう一つは高齢者を元気にすること。そのために、今は着物の帯でペンケースを作り、年間60万

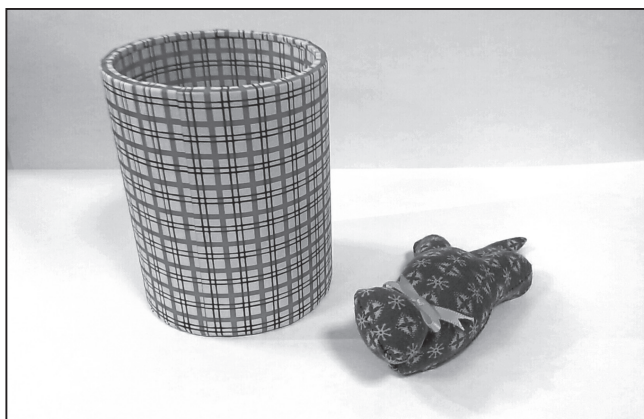
円儲けています。今注文が殺到して間に合いません。

他にも、たくさんの事業を起こしています。今20種類位作っていますが、それを販売してビジネス化し、デパートや店舗で売ってもらっています。お祭りやイベントにも全て営業しまして、昨年（平成26年度）は手作り製品で130万円売り上げました。

これが一つのグループでやっていく「市民力」だったと思います。皆さんがアイデアを作ってきて2～3人でグループを作り、作業します。また、指導者は全て自治会でお金を出して選んでいきます。「例えばリサイクル事業をやりたい」「着物から何かを生み出したい」という時は、リサイクル専門の方を呼びます。ちゃんとできるまでは、指導者の力をお借りします。ちなみに、私たちは指導費を自治会で払います。これがビジネスにつながって、かなり大きなグループができます。そして、グループごとに独立したら、全て売り上げた金額をあげていますので、自治会は儲けません。支援はしますけれど、作った物は全て提供しています。

あともう一種類ペンケースがあります。それは企業のから出たごみなのですが、貼っている紙は和紙ですから高価な物です。1枚160円もするのですから、企業から廃品を頂いて和紙を貼り、ペンケース、眼鏡入れ、それから、テレビのリモコン入れにしています。すごい人気があるので。これを75～76歳の男性陣が作っているのです。手が大きくしっかりしているので、のりがピシッと貼れます。そして、自転車が乗っかっても潰れず頑丈です。

また、こちらは、洗濯バサミと綿を入れただけのネコですが、これは、みんな60過ぎの人たちが作っています。



サークル活動の奨励

人が楽しく生活するために、たくさんの高齢者のためのグループ、サークル活動を奨励しています。今は600人参加し、180グループがあります。例えば「カトレアの会」や「ヒマワリの会」など花の名前が多いのですが、その会を5人以上の団体で作ると、そこに社会福祉協議会と連動して

1万円の補助をあげております。ですから、どんどんグループが増えていきます。例えば、毎日毎日、冬にひなたぼっこをするので「ひなたぼっこグループ」なんていうのもありますし、「散歩グループ」というのもあります。また、「お茶飲み会」などその他にいっぱいあります。カラオケグループだけでも11グループあります。それと、踊りをやっているグループ、歌声サークルグループ、それから絵画、書道、それに囲碁・将棋倶楽部、生け花教室、フラダンスクラブや社交ダンスクラブ等、なんせあり過ぎて名前が一気に覚えられません。それだけのグループで、コミュニティー会館や、自治会の集会所5カ所が、朝・昼・晩全て会場は満タンです。そのぐらい活性化につなげていくための手だてとしたら、グループを作ってあげる、グループを奨励する。それが一番の仲間作りの最初のスタートだったかなと思います。

今は至るところで呼ばれるのですが、本当にみんな和やかにやっています。その代わり「必ず会費を取ってください」とお願いしています。会費とチーム名を作り、代表者と会計を必ず選んでもらう。そして、カラオケや踊りをやっている人たち等が、年に1回9月に芸能発表を2日間行います。カラオケをやっている人はカラオケ大会。踊りをやっている人は踊り。太極拳をやっている人は太極拳を発表してもらいます。八十何人が参加し、朝の9時半から夕方4時ごろまで延々と芸能発表を行います。そして、代表者の会議で役割を持ち運営します。それも一つの「工夫」と「アイデア」の一つでした。

誰もが、自分たちのサークルはとて素晴らしいと思ってやっていますが、やはりいいものを知ってもらうために、私たちは国立音楽大学と提携しました。前日には、6連覇をした音大のジャズコンサートを開いております。なぜ音大が協力するかというと、会館の防音装置のある音楽室を大学に練習の場として提供しているのです。そのため、「提供する代わりに音楽の演奏を無料でお願いします」という形で、いい音楽を聞くことができます。そういう工夫をしながらアイデアを考えて、まちの活性化、そして、ここにあるもの、ないもの、いろいろ見たり聞いたりしながらみんなの意見を集約し、年度ごとに新しい企画を入れて活性化につなげていくという現状です。

病院と作る「工夫」と「アイデア」

先ほど、「病院はどうするの」という話があったのですが、すぐ近くに『国立災害医療センター』という国立病院があります。そこと提携をし、脳梗塞や心筋梗塞等の命に関わる病気の方は、たらい回しにしないで、その病院と

連携をして入院をさせてもらえるよう協定を結んでおります。そのために、年に1回、国立病院の先生に来ていただいて、講演会を行っております。地域ととてもいい形で病院との連携が図られております。

今年は更に『子どもの病気早期発見』というものと、『発達障害について』を開催します。今までずっと10年間、高齢者のための講演（脳梗塞や心筋梗塞、メタボや高血圧の病気等）ばかりだったのですが、若いお母さんから「高齢者のための講演ばかりで、私たち子育てしていくための講演ってやってくれないの」と意見がありました。なので、今年は国立病院に行き小児科の先生にお願いして来ていただくことになりました。

とはいえ、ただ講演会をやっても絶対人って集まらないのですよ。その時、農業をやっている方たちに400人分の地元野菜を提供していただきました。公演に来ていただいた方に参加記念として差し上げているのです。やはり講演会も大事ですが、自分の健康も知っていただかなければなりません。血管年齢測定や血圧測定、握力や前屈、エアロバイクで自転車を漕ぐ等の健康器具を用意して、体験することで、多くの方に参加していただけるのです。それも「工夫」や「アイデア」の一つとして、行政を巻き込んでやってまいりました。

「いざ」という時に困らないまちづくり

また、「防災」「減災」をテーマにした「防災ウォークラリー」を、近日開催します。このイベントでは、クイズが出題されます。例えば『Aさんは10階建てビルの上りエレベーターの中にいます。3階にいる時大地震がありました。さあ、4階を押すのでしょうか。1階から10階まで全て押すのでしょうか。正しいほうに丸を付けましょう』というもの。正解は「全部押す」です。地震が発生した時エレベーターに乗っていたら、1階から最上階まで全部押すのです。そして、止まったところで降りて確認し避難します。また、クイズの他に避難所運営（テント設営、食事の設営）を全て2時間以内で準備をする競技もあります。とても人気があるこのイベントは今年で8回目になります。しかも1等から10等まで商品が出るので、楽しみながら勉強することができます。



しかし課題も残っています。それは救命の資格です。この資格は世帯数の2割が持っていないてはなりません。私たちのところは360世帯が持たなくてはいけないところ、まだ80人しか到達しておりません。なるべく多くの方に、救命の資格を取っていただくように心掛けていますが、これには1,400円掛かります。それを自治会で年間20名ずつ奨励し、お金を渡して救命の資格を取っているのですが、3年経つと期限切れになってしまい、また受けなければなりません。しかし、一人でも多くの人が、「いざ」という時に困らないまちを作るための手だてをしています。

すべての人が仲間

「役員のなり手がいない」「役員がなかなか育たない」ということもありますけれど、私たちのところはそういう心配はないです。なぜかという、誰でも役員になれるような体制を作っているからなのです。それは、「高齢者がいるから省いていきましょう」「障害者がいるから抜いていきましょう」、そういうことはしません。障害者がいようと、九十何歳の方であろうと仲間です。そういう方にはちゃんとサポーターを付けております。障害者にも高齢者の方にも2人のサポーターを付けて、仲間意識を持ってもらい活動してもらうので、寂しい思いや大変な思いはありません。そして、イベントや運動会、お祭りの時には、全て「協力員」というスタッフを募集します。だから、役員は運動会の運営に苦勞しなくても、スタッフが全部やるので大変楽です。スタッフを募集すると、今年の運動会では148人のスタッフが集まりました。これが楽しくやりがいがあるからです。また、大学とも連携をしております。昨年と今年は中央大学と法政大学が社会参加（主にゼミ）をしてくれたので、そこをお願いすると喜んで来ていただけます。大体20人の学生さんに、審判係や誘導係等、一番きつい部分をやっていただきます。それも一つの工夫でした。大変なところもありましたが、考えてみたらうんと楽しかったな

というふうな気がします。

5つの気力

最後になりますが、皆さんに5つの力をプレゼントして終わりにしたいなと思っています。

①元氣, もう何事もみんなで元氣にいこう, ゆっくり歩きましょう。②陽氣, あいさつは明るく陽氣にいきましょう。みんなにあいさつをして, 一人でも多くの人の名前を覚えよう。名前であいさつをしようというのを奨励しています。③根氣, 諦めずに, いじめられても何しても根氣よくやる。④強氣, 自分たちのできないところは, 「これは行政部門だよね」というので, 行政にはとても強氣でやってきました。⑤やる氣, 何と言ったってやるしかないのです。それが「やる氣」。この5気力を, みんなの合言葉にしてがんばって活動しております。

本当に最後まで, ご清聴ありがとうございました。

質疑

<参加者>

一番聞きたいとこなのですが, 自治会で集めなければ5,000円の管理費ということは, 年間6万円のところ, 1万8,000円で済ましているということですね。

<佐藤良子先生>

はい, そうです。

やっぱり管理費を年間で払うと, 6万円払うのがいいのか, 1万8,000円がいいのかアンケートをとった時に, 「節約してみんなでハワイ行こう」というキャッチフレーズでやったら大笑い。ハワイに行った人は誰もいないのですが, 「それでも何か目的はハワイだよね」って。「じゃ, 福島県のハワイアンセンターでいいんじゃないか」と言うので, どこかのグループがハワイアンセンター行きました。このように何事も楽しくプラス思考でやれたのがいいのかなって感じがします。ですから, 節約するために, 皆さんのアンケート調査をしたので, 会計さんも理解してくれています。それから, 自治会で7人位役員がいるのですが, 大体6,000円から7,000円のお金を集めると楽なので, そういう方法を考えて, 皆さん快く集金してきます。一番金払いが悪いのは私です。いない時が多いので。「佐藤会長, 3カ月分ぐらいたまっているんですけど」と請求される時があります。大きいですよ。3カ月たまると6,000円なので, 毎月皆さん払ったほうがいいですよ。ただし, 失業したとか事情がある方には相談受け付けもありますので, 相談も受けています。